



JA北九 自己改革実践中!!



9月号から全3回でお伝えしている「JA北九自己改革実践中!」。第2回は、営農分野(後編)と経済分野です。JAグループはこれまで、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを柱に、事業・組織の改革(自己改革)に取り組んできました。平成28年4月には改正農協法が施行され、現在も事業の見直しや准組合員の利用規制を迫られています。そんな中、自民党は8月24日の農林関係合同会議で、農協改革推進に向けた決議を採択。その中で、准組合員の事業利用規制の在り方は「組合員の判断」に基づいて検討することを要求しました。JA北九は、正・准組合員の皆さまから「JAは必要だ」と言っていたただける組織であるために、これからも3つの柱を実現する取り組みを続けて参ります。先月号に引き続き、これまでの取り組みの一部を実績とともにご報告します。

営農分野(後編)

農業生産を上げる!生産力への挑戦

農地集積

● 絆ファームを中心に、農地利用集積団体化として2市4町の農業委員会と連携して、法人や個別経営対への農地集積に取り組んでいます。これにより、耕作放棄の未然防止などに努めています。



▲耕作放棄地を利用した芋焼酎造り

新たな担い手の育成・発展

● JA北九の子会社である絆ファームで研修生を受け入れ、北九州市と連携した新規就農研修を行っています。また、岡垣町と連携して、新規就農支援(園芸3件)や「高倉びわ塾」を開講しています。



▲絆ファームで行う新規就農研修



「高倉びわ塾」
特産品・高倉びわの生産者育成のため開講しています



▲JA北九絆ファーム
高齢化・後継者不足により委託された農地の稲刈り作業

低コスト生産技術への挑戦

● 炭酸ガスによるハダニ殺虫システムを導入しました。これによりイチゴの管理過程における農薬使用回数を減らすことができ、また、品質や数量・大きさの安定が見込まれます。



▲炭酸ガス ハダニ殺虫システム

経済分野

生産資材のコスト低減と農機・燃料部門のサービス向上

● 肥料価格が上昇する中、主要品目の価格据え置きや上昇を抑えつつ、北九48など主要3品目の肥料価格およびタンボール等の出荷資材についても価格低減に取り組んでいます。また、定期的に「経済部だより」を発行し、農家組合員の皆様に役立つ情報を発信しています。



修理やメンテナンスはお任せください



▲軽油を購入する生産者



私たちが経済部だよりを発行しています



▲パッケージセンター



▲リース事業を利用した
小倉南区・矢野さん(写真中央)のハウス

JA北九はこれからも農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた取り組みを進めていきますので、ご支援ご協力よろしくお願致します。

